

Tiara

看護情報誌ティアラ 2021年4月

Nursing最前線 ● 淡海ふれあい病院

急性期と地域をつなぎ
支える病院として
人の”物語“に寄り添う
看護と介護を提供

SCOPE 注目の話題

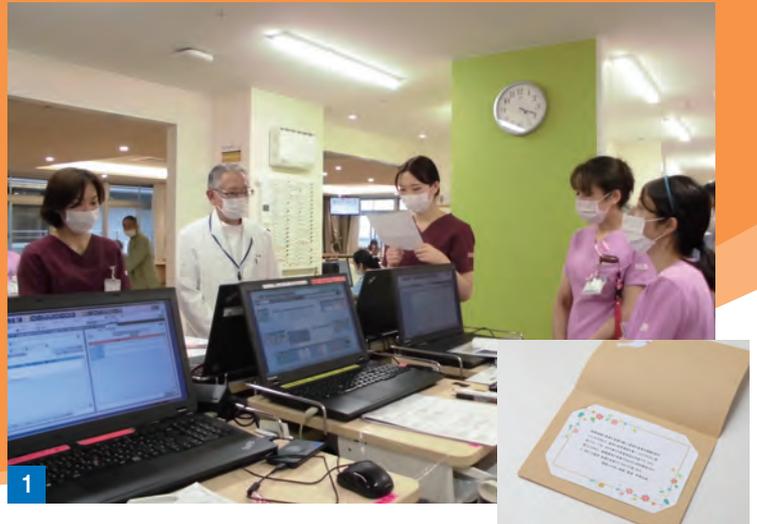
「医療安全」「医療安全管理者」のあり方を考える
新型コロナウイルス影響下における医療安全
第35回医療安全管理者ネットワーク会議 in Web



急性期と地域をつなぎ 支える病院として 人の“物語”に寄り添う 看護と介護を提供

淡海ふれあい病院

滋賀県草津市の中核病院として地域の人々を広く支えてきた草津総合病院から、機能分化を図るかたちで開院した淡海ふれあい病院。患者さんの人生と向き合いながら寄り添うNBN（語り・物語に基づく看護）の考え方を取り入れた試みを実施しています。その結果、スタッフ一人ひとりが慢性期にある患者さんの思いを第一に考えた看護・介護を展開。そんな病院の取り組みの様子をお伝えします。



急性期と慢性期の機能を分け 地域全体の医療を担う

滋賀県の南部に位置する草津市は、高齢化が進む一方で人口の流入も多く、年齢別人口構成が各世代にわたって散らばっているのが特徴。そのため多くの世代に対応した多様な医療が求められます。この地域の医療を支えてきた草津総合病院は、より患者さんに合った医療提供を行うため、新たに淡海ふれあい病院を開院しました。専門性の高い急性期医療を草津総合病院、地域に根ざした慢性期医療を淡海ふれあい病院と機能を明確にし、地域全体の医療を担っていこうというものです。

淡海ふれあい病院は2020年10月に誕生。草津総

合病院（719床）から、地域包括ケア病棟（100床）と医療療養病棟（99床）、じん臓病ケア総合センターを分離し、すでに2019年に介護療養病棟から転換していた介護医療院（100床）を内包するかたちで構成されています。地域との連携を図るための機能も有しており、高齢化によるニーズを満たし、地域包括ケアシステムのなかでその役割を果たしていこうとしています。

NBNを取り入れることで 慢性期看護・介護にやりがい

「新病院としては開院したばかりですが、院内199床がほぼ満床の状態です（2021年1月現在）。



1. NBNプロジェクトとして各病棟で行われている発表の様子。発表者に渡されるサンクスカードは看護部の手作り
- 2.(左から)片岡義子師長、堀池昌子副看護部長、田中紀子師長、榎原弘美師長、山田淳子師長。各病棟を支えている
3. 西村寿加代看護部長



4. 同院では院内デイサービスを実施している。病棟の垣根を超えて、参加可能な患者さんが集まる
5. 院内の随所に温かみを感じる演出がなされている。スタッフによる書道作品を展示



前病院からそのまま入院された患者さんも多い
え、急性期から転院されてくる方も絶えません。
スタッフたちが協力して頑張ってくれています」と話
すのは西村寿代看護部長。慢性期病床の場合、疾
患は多岐の診療科にわたり、高齢で医療依存度や介
護度が高い患者さんが多くなります。施設基準上、
看護職の数は限られ、その業務負担には厳しいもの
があるといいます。

このようななか、スタッフに慢性期看護のやりが
いに目を向けてもらいたいと取り入れたのがNBN
(narrative based nursing: 語り・物語に基づく看護)
です。NBM (narrative based medicine) の「医療」
を「看護」に置き換えました。このNBNへの取り
組みは、同院の開院準備が進むなか、現病院長であ
る平野正満先生の発案から始まった「サンクスカー
ド」に端を発します。それを看護部で関連づけた
「NBNプロジェクト」として実施しています。

同プロジェクトは、毎週1回いずれかの病棟で朝
15分程度の発表時間を設けて行われます。平野病
院長と西村看護部長、堀池昌子副看護部長が同席し、
それぞれの体験から感じた看護観や介護観の発表を
傾聴します。発表者には平野病院長からサンクス
カードと副賞が贈られます。看護師だけでなく、介
護福祉士や看護補助者、リハビリテーションセラピ
ストなど、同じ現場で患者さんと接するスタッフも参
加。同僚と看護観などの共有を重ねることで、NBN
の考え方は院内全体に浸透し始めているようです。

「患者さんには、これまでの健康状態、病気の捉
え方、家族・経済的背景、価値観や信条、いままで
の人生や考え方など、医療者に聞いてもらいたい、
理解してもらいたいという思いがあります。このよ
うな語りに耳を傾け、心を寄せることで信頼が得ら
れる。この信頼をベースに看護・介護を提供してい

くことを目指しています」(西村看護部長)

患者さんから学ぶことが スタッフたちを成長させる

NBNを意識することで、患者さんをよく見るよ
うになり、気づきが増えるといいます。そのためか、
スタッフたちの看護や介護にも変化がみえてきたと
か。患者さんへの言葉かけひとつにしても、より相
手の状況や思いに配慮していることがわかるそう
です。西村看護部長は「常に患者さんとその人生から
学ばせていただいているという気持ちをもってわか
ることが、スタッフたちを成長させているのだと思
います」と話します。

人と人のかかわりを大切にしながら、スタッフ
と一緒に病院を作り上げようとしている同院。地域
の慢性期医療の担い手としての今後が楽しみです。



DATA

淡海ふれあい病院

滋賀県草津市矢橋町1629-5
<https://www.kusatsu-gh.or.jp/ghk/omifureai>
開設 ●2020年 病床数 ●199床
職員数 ●250名うち看護職180名
(2020年10月現在)
看護体制 ●地域包括ケア病棟10:1
医療療養病床20:1

[主な施設内容] 地域包括ケア病棟、医療療養
病棟、じん臓病ケア総合センター、草津介護
医療院ころ・なごみ、居宅介護支援事業所
ふれあい、草津市在宅医療介護連携センター



「医療安全」「医療安全管理者」のあり方を考える 新型コロナウイルス影響下における 医療安全

第35回医療安全管理者ネットワーク会議 in Web

主催／一般社団法人医療の質・安全学会 共催／公益社団法人東京都看護協会
後援／厚生労働省 ニプロ株式会社

一般社団法人医療の質・安全学会のネットワーク委員会により、医療安全管理者の交流の場として構築・運営されている医療安全管理者ネットワークが、2020年9月20日、第35回医療安全管理者ネットワーク会議 世界患者安全の日記念イベント「新型コロナウイルス影響下における医療安全」を開催しました。コロナ禍のなかオンライン開催となりましたが、200名を超える参加者が視聴し、時代に即した医療安全と医療安全管理者のあり方を考えました。その講演の内容をレポートします。

セミナー当日は、東京都看護協会の大研修室1A・1Bを会場に、オンライン配信が行われました。演者のみなさんは、会場から、あるいは録画配信で、講演を行いました。

第1部 講演会

座長

医療の質・安全学会 ネットワーク委員／
直和会・正志会本部 看護業務担当部長
佐々木 久美子先生

講演1

第2回世界患者安全の日を迎えて

講師

医療の質・安全学会 国際委員会担当理事／
九州大学病院医療安全管理部 部長 教授
後 信先生

後先生は、今回のイベント開催の機会となった「世界患者安全の日」について解説しました。「世界患者安全の日」は、2019年にWHO（世界保健機関）によって創設された記念日で、毎年9月17日と定められています。「社会の意識を高め、参加を促し、国際的に理解を広めて、国際社会の連帯と患者安全を促進するための行動を促すこと」が目的です。WHOではこれまでも「WHO global health days」を定めており、世界患者安全の日は10番目の制定となりました。

第2回を迎えた2020年には、テーマ、スローガン、求められるアクションのすべてに「医療従事者の安全」が盛り込まれています。これは新型コロナウイルスのパンデミックを受けてのもの。2020年の大きな特徴だということです。

同記念日には、自国を代表する建造物やモニュメントをテーマカラーであるオレンジ色にライトアップしたり、オレンジ色のTシャツを着用して情報発信をするなど、世界各国でさまざまな取り組みが行われています。2020年はバーチャルイベントが開催され、後先生は所属する国立大学附属病院で組織するグループによる九州GRM研修会のメンバーで動画を撮影し、イベントに参加したそうです。後先生は「このような動きを通し、患者中心の医療の実現に向けて世界が動いているような気がします。日本からの行動や情報の発信により、世界患者安全の日の活動を年々盛んにしていきたいと思います」と締めくくりました。

講演2

新型コロナウイルス感染症が医療に与える影響

講師

国立国際医療研究センター 国際感染症センター
センター長
大曲 貴夫先生

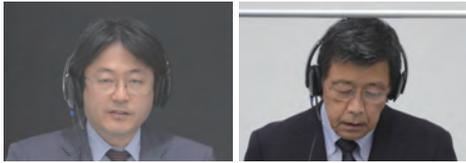
冒頭、国内で新型コロナウイルス感染が確認され始めた2020年1月時の状況を確認し、以降医療機関にどのような影響を及ぼしてきたかをまとめました。大曲先生は「インフルエンザウイルスやRSウイルスと異なり、新型コロナウイルスは発症前の無症状のうちから感染が起こります。ですから、症状を確認したら対応するというこれまでの感染対策はこのウイルスには通用しない。見極めが難しい面もありますが、医療従事者による院内感染を防ぐためには、軽い症状を早く拾いあげることが重要です」



佐々木久美子先生

後信先生

大曲貴夫先生



長尾能雅先生

木村壯介先生

と話しました。一方で、国立国際医療研究センター病院でのデータをもとに、2020年6月以前の入院症例と6月以降の入院症例を比較し、後者のほうが死亡例が少ないことを挙げ、医療機関による感染対策のレベルが上がっているのではないかという見通しも述べています。

また、ダイヤモンドプリンセス号での感染者を受け入れた事例で、その重症化の速度と症状の深刻さを紹介。そして、重症になることで、病床の専有期間が長くなり、かかわる医療従事者の数が増えることを指摘。「そのため、重傷者や死亡者を減らすための対策・仕組みを構築していくことが重要になっています」と、大曲先生は新型コロナウイルス感染症に対応する一つの方向を示しました。

「いまやWHOでも取り上げられるようになった日本発信の『3密』の概念、そして医療従事者や感染者だけでなく誰もが行うことで感染を予防する『ユニバーサスマスキング』など、一つ一つの問題・課題を検討し、対策を立て、それを共有・標準化することが、これからも必要になります」と、大曲先生は結びました。

講演3

新型コロナウイルス影響下における患者安全

講師

医療の質・安全学会 理事長／
名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部 教授
長尾 能雅先生

長尾先生は、コロナ禍における患者安全の役割について「病院全体の有事対応を支援しつつ、同時にそれらを俯瞰し、医療の質を保ちながら、患者の安全管理に全力を尽くすこと」としました。患者安全は、有事であったとしても、疎かにされていいものではなく、状況に合わせて変化することはあっても、その役割を見失ってはならないといえます。

これを前提に、名古屋大学医学部附属病院で2020年1～5月に報告されたインシデントレポートについて分析を行いました。すると「不十分な感染防御対策」

第35回 医療安全管理者ネットワーク会議 in Web
世界患者安全の日記念イベント
新型コロナウイルス影響下における医療安全
2020年9/20(日) 11:00-15:00

【対象】 医療安全管理者、医療安全管理を行う者、医療安全に関わる者、等
【配信場所】 公益社団法人東京医事薬学協会
医師、看護師、薬剤師、理学療法士の皆様も是非参加して下さい

【開催方法】 オンライン開催 (Zoomウェブナー) ライブ配信
【定員】 250名 [先着順]
※参加費はオンライン参加の1日1回分を無料です

【司会挨拶】 厚生労働省医政局 総務課医療安全推進室 室長 諸富 伸夫 氏

【第1部 講演会 11:10-12:50】
【第2部 パネルディスカッション 13:30-14:55】
新型コロナウイルス影響下における医療安全管理者の役割
新型コロナウイルス感染症影響下でのインシデントからの一考察

【講演】 医療の質・安全学会 ネットワーク事務局 緩和ケア・正念本部 看護実践部部長 佐々木久美子
【講演】 医療の質・安全学会 ネットワーク事務局 九州大学国際医療安全管理部 部長 後信 先生
【講演】 新型コロナウイルス感染症が医療に与える影響
国立国際医療研究センター 第一 大曲 貴夫 先生
【講演】 新型コロナウイルス影響下における患者安全
医療の質・安全学会 理事 長尾 能雅 先生
【講演】 第15回医療の質・安全学会学術集会開催に向けてのメッセージ
日本医療安全調査機構 常務理事 木村 壯介 先生

【休憩 12:50-13:30】
後援 ニプロ株式会社による情報提供

【休会】 13:30-14:55
【講演】 新型コロナウイルス感染症影響下における医療安全管理者の役割
【講演】 新型コロナウイルス感染症影響下でのインシデントからの一考察
【講演】 医療安全管理者の感染制御室と協働しての地域連携
【講演】 医療安全管理部門のBCP (業務継続計画)
【講演】 医療安全管理者・部門の状況と今後の展望

主催 公益社団法人 医療の質・安全学会
共催 TOKYO NURSING ASSOCIATION
後援 ニプロ株式会社

医療安全管理者ネットワーク会議ポスター

「不明瞭な対策・ルール」「新たな対策・ルールの導入により発生した問題」「新型コロナウイルス感染症陽性・疑い患者治療中のトラブル」という4つのカテゴリーに分類され、コロナ禍の患者安全においてどのような問題が生じるのかを浮き彫りにしました。

また、新型コロナウイルス感染症に対応していくなかで、同院で実際に生じた課題を具体的に紹介。医療安全管理者や感染対策チームがどのように動いたかも例を交えて話しました。そして、実際に課題を体験することが自分たちの成長につながると述べ、その積み重ねこそが、医療従事者と国民の信頼関係を強め、国家的な有事に立ち向かう力になるとしました。

講演4

第15回医療の質・安全学会学術集会開催に向けてのメッセージ

講師

第15回医療の質・安全学会学術集会 大会長／
日本医療安全調査機構 常務理事
木村 壯介先生

第15回医療の質・安全学会学術集会（2020年11月22～23日開催）の大会長を務めた木村先生が、開催にあたっての思いを話しました。今回の集会は「『予期しない死亡』にどのように対応し、次につなげるか ～『医療事故調査制度』開始5年を経て～」をテーマとし、医療事故調査制度のこれまでを振り返り、今後を考えるものです。さらに、特別企画として、新型コロナウイルス感染症についての最新情



パネルディスカッションの様子



山元恵子先生



關良充先生



亀森康子先生



荒井有美先生



寺井美峰子先生

報の提供を行うことにしました。大会はWeb方式で行われ、ライブ配信以外にオンデマンド配信もされました。2020年1月以降、コロナのウイルス感染症により一般医療提供体制が減衰し、それに対応して「医療事故」発生報告も減少したことが報告されました。木村先生は、医療事故調査制度によって当該医療機関が自ら調査・検討し、そこから学ぶことが、医療安全につながっていることを訴えました。

第2部 パネルディスカッション

新型コロナウイルス影響下における医療安全管理者の役割

医療の質・安全学会 ネットワーク委員／
公益社団法人東京都看護協会 会長
山元 恵子先生

講演1

新型コロナウイルス感染影響下でのインシデントからの一考察

東京北医療センター 医療安全管理部
講師 關良充先生

關先生は、まず東京北医療センターでの2020年3～6月のインシデントレポートの報告状況を振り返りました。特に、新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病床と救急外来の報告件数を挙げ、いずれも4月の前年度比は大幅に減少しており、第1波の時期に当たるため発熱患者の受け入れ等による影響ではないかと分析しました。そのうえで特徴的な事例を報告。そのなかから検体検査に起因した手術の遅れにかかわるインシデント事例について分析し、伝達方法や検査体制の見直し、PPE装備による手術室搬送・手術実施などの防止対策を提示しました。

さらに、同センターでの有効な対策についても述べました。部署別にすべき対策をどう進めるかを示した「新型コロナウイルス感染症を乗り越えるためのロードマップ」の作成、感染対策室と医療安全管

理室との連携による情報共有、地域の中規模病院間での連携機能を紹介しました。

講演2

医療安全管理者の感染制御室と協働しての地域連携

自治医科大学附属さいたま医療センター
医療安全・渉外対策部
講師 亀森 康子先生

新型コロナウイルス感染症による影響下での、医療安全と感染対策の連携、地域間での連携について、亀森先生が自治医科大学附属さいたま医療センターの実際を紹介しました。

緊急での患者対応が求められるなか、医療安全管理者が患者データの収集の申し出やPPE着脱のシミュレーションについて感染制御室を支援した例を示し、日頃から研修会等で築かれた連携体制が生かされたと話しました。また、医療安全対策地域連携加算を通して培ってきた地域ネットワーク間でも相互支援が図られたといいます。そして、新型コロナウイルス感染症への対応では、対策・ルールの周知や組織横断的な活動を円滑に進めるためには、医療安全と感染対策の連携強化が一層必要になるとしました。

講演3

新型コロナウイルス感染影響下における医療安全管理部門のBCP（業務継続計画）

北里大学病院 危機管理部 医療の質・安全推進室
講師 荒井 有美先生

BCP (business continuity plan) とは、災害などの有事に際して、損害を最小限に抑え、重要な業務を継続し、早期復旧を図る目的で立案される業務継続計画のこと。COVID-19の影響下においても、必要な医療提供体制を維持し、患者と医療従事者の安全を確保するために、医療安全管理部門におけるBCPは重要であると荒井先生は話しました。また、COVID-19への対応という緊急事態にあって、BCPの策定により最優先にすべき医療安全を考えるプロセ



大会当日はテレビ取材もみられた

スは、最重要課題を再認識できるとしました。北里大学病院では災害拠点病院としてBCPを作成。自然災害とパンデミックでは、被害対象や期間、影響範囲等は違いますが、院内での発生事案について正確に情報を収集し、その都度的確な判断と対処が求められることは共通します。同院では、BCPに基づきCOVID-19対応のため危機管理委員会を発足させており、感染対策、医療安全、経営が三位一体となることの大切さを改めて感じたと話しました。

講演4

医療安全管理者・部門の状況と今後の展望

講師 北野病院 看護部長
寺井 美峰子先生

寺井先生は「新型コロナウイルス影響下における医療安全管理者の役割に関する調査」の結果を報告しました。57施設（26都道府県）から得られた回答を分析、新型コロナウイルス感染が広まるなか、医療安全管理者が主にどのような役割を担っているかを探りました。

調査内容は、新型コロナウイルス感染症関連の影響、インシデント報告の傾向やその対策など9つの項目にわたっています。なかでも、特に重要だと位置付けられる「医療安全管理委員会の開催」「医療安全に係る職員研修の実施」「医療安全に関する採用者オリエンテーションの実施」については、eラーニング・オンライン・DVDへの切り替えや、3密を避けるなど最大限の対策の導入など大きな影響が



パネルディスカッションのWEB画面



WEB配信を行う会場の様子



ご登壇いただいた先生方とネットワーク委員会のメンバー（写真撮影時のみマスクを外しています）

あったという結果となっています。また、新型コロナウイルス感染症対策に際して、医療安全管理部門がリーダーシップを取ってマネジメント機能を果たし、施設全体を統括したケースもみられました。

このように、各先生が自施設において医療安全管理者・部門がどのような役割を果たしたかを、具体的な取り組みを含めて報告しました。これを参考に、ディスカッションでは研修への対応について踏み込んで話し合い、今後も参加者と一緒に考えていくことを確認しました。ディスカッションに同席した医療の質・安全学会理事長の長尾先生は、新型コロナウイルス感染症対策について「医療安全は感染制御に主眼を置き、その指揮棒を現場が注視できるようサポートすることを考えていく必要がある」としました。

医療安全管理者ネットワーク会議を終えて

第35回医療安全管理者ネットワーク会議は、世界が新型コロナウイルス感染症に襲われるという未曾有の事態のなか、医療安全管理者がいかに機能しているか、どのような役割が期待されているのかという状況を共有することを目的としました。初めてのオンライン開催でしたが、多くの方々のおかげで盛会のうちに終えることができました。院内の医療安全職員研修のあり方、感染管理部門との連携、リーダーとしての動きなど、それぞれの講演・報告から、参加していただいた皆さんに何らかの学びを得てもらえたら嬉しいです。



（左から）ネットワーク委員会担当理事の寺井美峰子さんと前担当・学会副理事長の嶋森好子さん

どうしたらいい？

お助け！ 接遇

Q&A

vol.10



看護の中で出合いがちな
接遇にかかわる困りごとに答えます

解答

株式会社 C-plan 代表取締役
小佐野美智子さん

Q.

これまで漫然としていたマスクが、
新型コロナウイルス感染症の影響で
着用が必須になりました。気をつけ
るべきことを教えてください。

A.

マスク着用時は表情が伝わりにくいた
め、120%の共感の表情と笑顔を意識
し、お願いするときは依頼形を用いる
ようにしましょう。

マスクを着用すると、顔の半分以上が隠れるため、表情で患者さんに寄り添う気持ちを示していても、無表情に見えることが多くなります。それが、話しかけづらいような怖い印象を患者さんに与えてしまう可能性があります。また、思いと違った表情に見えてしまうこともあります。例えば、「優しい微笑み」が「悲しい」「残念」な表情として伝わってしまい、誤解を招くことも考えられます。マスクを着用している際は、普段より大げさなぐらいの表情を心掛けるとよいでしょう。口元を隠して鏡の前で練習したり、スマートフォンで撮った動画を見直すなど客観視すること

も効果的です。

また、ビニールシート越しの対応が多くなり、声が遮断されて相手に伝わりづらいケースも考えられます。そのような場合、相手に伝わるようにと大きな声で話すと、どうしても命令口調に聞こえがちです。そうならないように、断定形でお伝えすることを避け、語尾に「～ませ」をつけたり、依頼形（疑問形）である「～していただけませんか？」など相手に判断を委ねる伝え方をしてみましょう。大きな声でも相手の心証を害さずお伝えすることができます。ぜひ、取り入れてみてください。

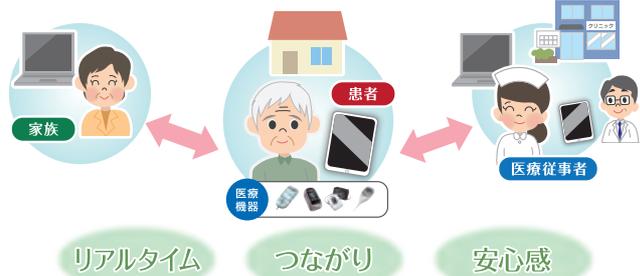


オンライン診療のサポートに。見守り支援システムのご提案

患者の情報をリアルタイムに把握・共有することができます

Heart Line ニプロハートライン

見守り支援システム「ニプロハートライン」は
在宅・施設の療養環境と医療従事者・介護者をつなぎ、
療養環境を必要に応じ継続的にケアすることが
可能なシステムです。



● バイタル情報がわかる

バイタル情報などをリアルタイムで確認可能。

● 緊急時に自動お知らせ機能

自動お知らせ機能で緊急時にも適切な対応。

● 顔を見ながらテレビ電話

テレビ電話で顔を見ながら会話が可能。
テレビ電話で病状説明を受けることができるので、
医師等との時間調整や会話がスムーズに。

使用シーン ①



使用シーン ②



使用シーン ③



使用シーン ④



ニプロ株式会社

〒531-8510 大阪市北区本庄西3丁目9番3号

お問い合わせ

企画開発技術事業部
国内商品開発・技術営業本部
検査商品開発・技術営業部

☎ 06-6373-3168

9:00～17:30(土・日・祝祭日を除く)
※電話番号をよくお確かめの上、おかけ頂きますようお願い致します。

2019年1月作成